

平成 29 年度 地域振興推進費事業の実績について

H30. 4. 25
佐久地域振興局

1 事業数 17事業

2 活用可能額 10,690千円

3 執行額 10,600千円 (執行率 99.2%)

4 事業の評価

期待以上 6事業

期待どおり 9事業

やや下回る 2事業

期待以下 0事業

合わせて88%

5 事業実績・成果等 別紙のとおり

平成29年度地域振興推進費事業実績等一覧

施策の柱	NO	事業名	主な担当課	実績額	評価	成果目標	事業実績	事業成果
1 佐久地域地消地産プロジェクト	1	佐久地域の特色ある農産物の産地巡り及び地元食材・地酒の提案事業	農政課	2,366,949	期待以上	管内の宿泊施設等において地元食材・地酒の価値や魅力に対する理解が深まるとともに、幅広い年代層へサンプルの生食文化が啓発され、活用に向けた取り組みが進む。	○「サンプル種飛ばしグランプリ2017」を開催。県内外から129人が参加するとともに、各種メディアにも取り上げられ、広く関心を集めた。 ○軽井沢町内のホテル等の関係者29人が参加し、農家巡りバスツアーと地元食材を活用したメニューと地酒の提案を開催するとともに、当該イベントのパンフレットを530社に提供し地元食材・地酒を広くPR情報発信した。	○アンケート調査の結果、イベントの満足度は85%、子供と家族連れというターゲットも74%と高く、期待する情報発信と年代層への訴求が図られた。 ○特色ある農産物等の産地巡りにより農家と宿泊施設の新たな取引ができた。 ○地元食材の魅力を新たに認識したホテル等の関係者に活用の機運が高まった。
	2	「信州食育発信3つの星レストラン」×「地消地産」の連携による食育発信事業	保健福祉事務所 健康づくり支援課	452,589	期待どおり	○信州食育発信3つの星レストランの認知度の向上 ○健康に配慮したメニューの利用者の増加(今後調査) ○信州食育発信3つの星レストランの登録店舗の増加(14店舗→18店舗)	○3つの星レストラン紹介コーナーを月刊とわいえに年6回掲載 ○佐久地域3つの星レストラン等PRちらしの作成・配布約2,600部 ○佐久地域の「食」に関する情報発信イベント「佐久地域食育推進フォーラム」開催 142人参加	○3つの星レストランを広くPRすることができた。 ○イベントの開催等により、飲食店関係者への3つの星レストラン登録への動機づけができ、30年度当初に登録見込の飲食店が3店舗、29年度に健康に配慮した弁当「健康づくり応援弁当」の販売を始めた飲食店が1店舗となり、ほぼ期待どおりの成果があった。
	3	東信地域食料自給圏消費実態調査	農政課 (上田地域振興局と連携)	250,000	期待どおり	東信地域内の消費者の消費実態及び小売業者、加工業者等の販売実態・意識を把握し、地域製品の販売方法、消費者ニーズに合わせた地域製品の提供等に繋げる。	○長野大学古田ゼミがスーパー・パン屋等実需業者への聞き取り、アンケート調査を実施した。 ○長野大学にて事業中間検討会、加工品の試食・評価アンケートの実施。 ○報告書の提出を受け、次年度の取組を検討した。	○東信地域内の加工業者、小売業者、販売店等の販売実態や意識が把握できた。今後、観光地の宿泊施設に対するマーケティング戦略において活かすことができる。 ○地域製品の消費や地域内循環の推進に向け、調査結果を踏まえ業者の販売意向に添った商品開発、原料選定等が可能となる。
	4	「2017環境フェアin佐久」	環境課	220,179	やや下回る	○参加団体:30団体 ○来場者数:10,000人以上	○参加団体:31団体 ○来場者数:約6,800人	○親子で参加しやすい、ソーラーカー試乗、人力発電等の体験型イベントや木工教室など他課と連携した多様な取組を行ったことで、親子で環境に対する日常的な関心を高めるとともに、環境保全に対する意識を醸成することができた。 ○これにより自発的な環境に配慮したライフスタイルに取り組むことが期待される。
2 観光・産業分野における健康長寿の取組	5	さくっと「ずく出す」プロジェクト～働き盛りのための運動セミナー～	東信教育事務所	567,979	やや下回る	○働き盛り世代の生活習慣病予防 ○講師派遣企業数 10社以上	○スポーツ指導者養成講座 開催2回 参加者34人 ○企業が開催する働き盛りを対象とした運動教室への講師派遣 派遣企業3社 派遣回数5回 参加者87人	○運動教室の開催後のアンケートでは、「今後も研修に運動を取り入れてほしい」と前向きな回答をする参加者が77%おり、運動習慣が形成されていない働き盛りの住民に、運動習慣の定着のきっかけを作ることができた。 ○企業の若手職員を中心にスポーツ指導者を養成したことにより、企業内において社員が習慣的に運動する環境を整備することができた。 ○訪問した多くの企業が平成30年度の運動教室の開催に前向きであった。

施策の柱	NO	事業名	主な担当課	実績額	評価	成果目標	事業実績	事業成果
2 観光・産業分野における健康長寿の取組	6	さくっと「ずく出す」プロジェクト ～健康増進機器開発企業等と連携した「ロコモ」予防の普及～	商工観光課 保健福祉事務所 健康づくり支援課	704,839	期待以上	○運動支援ボランティアの増加 ○運動支援ボランティアを活用する市町村の増加 ○サポーター等に対する普及啓発活動 4回	【保健福祉事務所】 ○ネットワーク会議 2回開催 ○実態調査 9月実施 ○サポーター養成講座 4回開催 参加者72人(延べ出席者264人) ○フォーラム 1回開催 120人 ○チェックシートの作成 4,000部 【商工観光課】 ○ロコモ計測器等による健康管理意識の啓発(計測機器の体験、ポールを使ったウォーキング講習) ○歩行チェック 1回開催 南牧村 ○ロコモチェック・歩行チェック 3回開催 佐久市 ○ポールを使ったウォーキング 1回開催 佐久市	○身体活動の向上・運動に関連する機関・団体との連携が図られ、本事業をきっかけに地域高齢者の身体活動向上や運動への関心が高まり、取組が地域に広がる事が期待できるようになった。 ○ずく出すサポーター養成講座では当初の募集人員を大きく上回る100人以上の参加申し込みがあり、68人のサポーターを養成できた。 ○地域住民及び運動支援ボランティア等に対し地元企業の製品・サービスを活用し健康意識の向上を図ることができた。
	7	“さく”っとうす味みんなでキャンペーン	保健福祉事務所 健康づくり支援課	334,889	期待以上	○減塩の必要性を理解し、減塩の行動ができる人の増加 ○実施目標数 ・塩分チェックシートの実施 3年間(H27～H29)で10,000人(佐久地域人口20人に1人) ・みそ汁の試飲 3年間(H27～H29)で2,000人(佐久地域人口100人に1人)	○減塩川柳コンテスト入賞作品のポスター1000部、チラシ5,000部作製・配布、調理師会大会冊子への掲載 ○出前講座の実施 12回 743人 ○塩分チェックシート・みそ汁の試飲 塩分チェックシートの実施 10,031人(H27～H29) みそ汁の試飲実施 6,093人(H27～H29)	○食育関係機関・団体の協力を得て、佐久地域関係者全体でキャンペーンを実施し、減塩に関する機運の醸成や市町村事業への拡大となった。 ○塩分チェックシートは3年間の目標数、みそ汁の試飲は目標数の3倍以上の者に実施することができ、多くの地域住民に減塩の必要性の理解や実践の動機づけをすることができた。
	8	ヘルスケア産業支援事業	商工観光課	118,310	期待どおり	プレメディカルケア産業セミナーの参加事業者数:20事業者	プレメディカルケア産業セミナー 1回開催 参加者:25事業者(38人)	○「健康長寿を活かした産業」に関する、全国の先進的な事例や地元の取組などについて、理解を深める機会となった。 ○製造業者のほか金融機関も参加し、プレメディカル産業について、ビジネスとしての理解が広がった。
3 カラマツの利用拡大・高付加価値化	9	いわずら佐久カラマツ利用拡大プロジェクト	林務課	497,407	期待どおり	○イベントの参加、出展2回、 ○森林フォーラムの開催1回 ○ワークショップの開催2回 ○県民の佐久カラマツの認知度向上及び利用拡大を図る。(H29目標 主伐面積60ha)	○環境フェアで木工教室 1回開催 ○岩手県へカラマツ材流通等の先進事例調査実施 ○森林フォーラム 1回開催 ○カラマツ製パネル、イーゼル、サイクルラック作成 ○主伐面積 71ha	○木工教室で木工体験とアンケートを実施し、一般県民にカラマツ材のPRと意識調査を実施することが出来た。 ○岩手県での先進事例調査により、今後のカラマツ材の流通、林業用苗木生産、再造林方法等の確立の一助となる知識を得た。 ○森林フォーラムにより、カラマツの利用拡大とブランド化に向けた気運の醸成が図れた。 ○カラマツ製パネル等の作成により、一般住民へカラマツ材の良さ等をPR出来た。
1 移住・二地域居住の推進	10	移住スタイルの類型化と発信の検討	企画振興課	911,663	期待どおり	○移住希望者に向けて発信する「佐久地域のライフスタイル」の作成 ○「佐久地域のライフスタイル(モデルケース)」の発信による「佐久地域」としての移住交流の促進	○「佐久地域のライフスタイル」を作成 ○移住専門誌やWeb媒体を通じた「佐久地域のライフスタイル」の発信(移住専門誌TURNSに掲載)	○Web掲載したところ10日あまりで佐久地域の関連ページに約1,200件のアクセスがあり、今後市町村等への移住の相談が見込まれる。
	11	管内市町村が連携した移住相談会の開催	企画振興課	341,479	期待どおり	移住セミナー参加者数:16人	○銀座NAGANOにおいて移住セミナーを1回開催 ・参加者:16人 ・参加者満足度:約90%(参加者アンケート調査) ・参加市町村:4市町村(小諸市、小海町、南相木村及び立科町)	○首都圏からの良好なアクセス環境及び広域的な暮らしぶりを移住希望者に提示し、移住への心理的ハードルを下げることに寄与した。 ○参加者アンケート調査により、今後の移住施策を進める上での課題を確認することができた。

施策の柱	NO	事業名	主な担当課	実績額	評価	成果目標	事業実績	事業成果
1 移住・二地域居住の推進	12	管内市町村が連携した移住体験ツアーの開催	企画振興課	1,253,512	期待以上	ツアー参加者の満足度8割以上	○佐久地域を巡る「佐久地域移住体験ツアー」1回開催 参加者:7組14人 ・開催地:管内2市3町(小海町、立科町、小諸市、御代田町及び佐久市)	○複数の市町を巡ったこともあり、参加者アンケートでは全員が「とても満足」または「満足」と回答し、医療・買い物などの生活環境の充実を知ったり、先輩移住者との懇談により理解が深まったとの回答があった。 ○ツアーの翌日、佐久地域内で物件を探す参加者がいた。 ○佐久平駅を発着点とすることで、東京との距離を体感してもらい、東京への通勤を検討する参加者もいた。 ○参加市町からは今後も継続して開催を望む声が寄せられた。
	13	移住・定住に向けた研修会の開催	企画振興課	68,196	期待どおり	移住希望者に向けて「佐久地域で暮らす魅力」を発信するための「佐久地域のライフスタイル(モデルケース)」を作成し、佐久地域全体としての移住・二地域居住の推進に寄与する。	○佐久地域移住推進会議 1回開催 ・内容:講演会、意見交換 ○「佐久地域のライフスタイル」を作成	佐久地域全体で「移住希望者の興味を引くような魅力的なライフスタイルの発信」に取り組むことを確認したほか、モデルケースのサンプルを作成し、今後、地域全体で取り組む「ライフスタイルの発信」のイメージが共有できた。
2 住環境の整備と魅力発信	14	「白駒の池」周辺の渋滞対策	商工観光課	1,663,200	期待以上	路上待機車両・路肩への無断駐車を解消し、スムーズな相互通行を確保する。	○信州DC前～期間中 ・国道141号、299号を中心に交通案内看板(37基)の設置 ・シャトルバスの時刻表などを情報発信 ○信州DC後 ・県道松原湖高原線と299号との分岐点に「白駒の池」等を案内する標識版を設置	○シャトルバス運行(小海町・佐久穂町:元気づくり支援金事業)や諏訪地域振興局と連携したことで、白駒の池周辺の駐停車が解消し、交通渋滞の緩和に寄与することができた。 ○交通案内看板の設置により、スムーズな駐車場への車両誘導が行えたほか、信州DC後は白駒の池・松原湖への案内が分かりやすくなった。
	15	星が美しい佐久地域のPR事業	商工観光課	581,283	期待どおり	参加者の満足した割合 8割以上	・星空観賞会に計100人(10/21:49人、12/9:51人)が参加 ・参加小中学生が書いた絵日記を、イオンモール佐久平等管内11ヶ所で1/15～3/2まで展示 ・管内事業者の協力のもと、参加記念品を制作し「参加記念品を贈る会」にて贈呈(欠席者には郵送)	○佐久地域の小中学生に美しい星空を見た経験を将来にわたり誇りにしてもらおうきっかけをつくることができた。 ○参加小中学生全員が体験を通じて、星空や宇宙に興味や関心を持つ内容の絵日記を書いており、満足度が目標に達したと判断でき、今後も佐久地域の星空に興味や関心を持ちつづけることが見込まれる。
	16	SNSを活用した観光情報等発信事業	商工観光課	123,987	期待どおり	佐久地域全体でSNS等を活用して効果的に観光情報を発信できる仕組みを構築	○SNSを活用した観光情報セミナー 1回開催 参加者:23人 ○広域観光情報発信カードの作成 作成数:10,000枚 配布場所:JR軽井沢駅改札内付近	○自治体や観光協会等の観光関係者に情報発信の必要性やSNSの特性の理解を深める機会となった。SNSによる具体的な情報発信の手法を知りたいという積極的な意見が聞かれた。 ○観光客が集まる軽井沢から広域的な周遊観光を促すための情報発信の仕組みづくりができた。
2 浅間山を活用した観光等の推進	17	浅間山周遊登山に向けた検討	商工観光課	142,960	期待以上	登山者ニーズを把握することで、浅間山周遊登山の利便性向上に向けた手段の検討を図る	○モニターツアー 1回実施 参加者:18人 ○アンケート調査実施 ○関係機関と浅間山周遊登山に向けた検討会議を開催	○浅間山周遊登山の魅力の発掘や登山口を結ぶ移動手段を確保すれば、周遊登山のニーズがあることが判明 ○こもろ観光局が浅間山周遊登山のシャトルバスの運行の検討を実施するなど、関係者による取組に発展

【予算額】 10,690,000 【実績額計】 10,599,421 【差引】 -90,579